

## 日本版DMO形成・確立計画

## 1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO・ <b>地域DMO</b>	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人北海道江差観光みらい機構	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	北海道檜山郡江差町	
所在地	北海道檜山郡江差町姥神町 1-10	
設立時期	平成 30 年 10 月 17 日	
職員数	職員 7 名【常勤 7 人（正職員 7 人）】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 照井 誉之介 （出身組織名） 江差町	江差町観光まちづくり協議会の会長を務める。江差町長でもあることから、町内外に幅広い人脈があり、また強いリーダーシップを発揮し、様々な取組で成果を上げている。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材） ／ 全体統括	（氏名） 浅見 尚資「専従」 （国内旅行業務取扱管理者）	前職では、新幹線開業に伴う広域観光推進と道の駅（みそぎの郷きこない）の立ち上げに関わり、DMO的な機能を担う情報戦略や観光部門の中心的役割を務めた。特に、道の駅は全国でも先進的な広域観光の拠点形成に貢献した実績を残している他、江差町を含む道南エリアの観光事情に精通している。
販売部門責任者	（氏名） 石川 万里「専従」	食品関係のメーカーで営業職として、全国の手チェーン店を相手に好成績を上げた実績を持つだけでなく、様々な販売促進策を提案し実現してきた経験を併せ持つ。直近では 6 次産業の加工メーカーに勤務し、地場産品の商品化に関する知見を持つ。
情報発信部門責任者	（氏名） 今谷 好志「専従」 （国内旅行業務取扱管理者）	民間での通信事業関係の SE 業務経験者であり、江差町での地域おこし協力隊として活動してきた経験・ネットワークも活かし、効果的な情報発信や PR 等のスキルを発揮できる。
体験観光部門責任者	（氏名） 竹内 泰輔「専従」	江差町での地域おこし協力隊としての経験や町内ネットワーク、また DMO の準備段階において町職員として従事し、体験メニュー構築等にも携わってきた。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 江差町追分観光課：DMO の取組に係る相談窓口、観光プロモーション等</li> <li>・ 江差町まちづくり推進課：全般的なまちづくりの方向性に係る連携</li> <li>・ 江差町産業振興課：産業界との連携に係る連携</li> <li>・ 江差町社会教育課：郷土芸能や文化財の活用に係る連携</li> </ul>	
連携する事業者名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光プロモーション：江差観光コンベンション協会、函館バス、ハートランドフェリー、町内宿泊施設、飲食物販施設、観光施設、江差町役場</li> <li>・ 体験観光メニュー開発：ガイド協会、町内各種団体、江差町役場</li> </ul>	

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業者との連携推進：江差商工会、江差町役場</li> <li>・マーケティングリサーチ：北海道教育大学函館校</li> <li>・イベント開催：開陽丸青少年センター、江差町役場</li> <li>・DMO 連携および調査や誘客に関わる事業推進：北海道観光振興機構</li> </ul>		
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) ③ (概要) 平成 29 年に「江差町観光まちづくり協議会」を設置し、当協議会は、江差町における DMO 法人の設立前から、設立に向けた準備、設立後の役割等に関する議論を進めてきており、今後も DMO 法人の取組に関する連絡調整を行うこととなっている。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold;">江差町観光まちづくり協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江差観光コンベンション協会</li> <li>江差商工会</li> <li>ひやま漁協 江差支所</li> <li>新函館農協 江差支店</li> <li>江差建設協会</li> <li>江差町民芸団体連絡協議会</li> <li>江差町歴まち商店街協同組合</li> <li>江差町地域活性化協力隊</li> <li>江差町町内会連合会</li> <li>開陽丸青少年センター</li> <li>江差追分会</li> <li>江差観光ガイド協会</li> <li>[加入予定] 地域交通機関 (バス, フェリー)</li> <li>[事務局] 江差町役場 (町長, 副町長, 教育長, 追分観光課)</li> <li>[事務局] 北海道江差観光みらい機構</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%; font-size: small;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>オ ブ ザ ー バ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北洋銀行 江差支店</li> <li>道南うみ街信金 本店</li> <li>檜山振興局 (地域政策課)</li> <li>(商工労働観光課)</li> <li>(教育支援課)</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>コ ー デ ィ ネ ー タ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道教育</li> <li>大学 函館校</li> </ul> </td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold;">北海道江差観光みらい機構</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>町内外連携先の紹介などを行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● DMO の重要な運営方針について、同協議会から助言・提言する。</li> <li>● DMO の方針策定にあたり、同協議会内でワークショップを実施して、アイデアの肉付けや</li> </ul> </div> </div> <p>※同協議会では、地域交通機関(バス, フェリー)に加入を要請する方針を、令和元年 9 月開催の会議で承認済みである。</p>	<p>オ ブ ザ ー バ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北洋銀行 江差支店</li> <li>道南うみ街信金 本店</li> <li>檜山振興局 (地域政策課)</li> <li>(商工労働観光課)</li> <li>(教育支援課)</li> </ul>	<p>コ ー デ ィ ネ ー タ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道教育</li> <li>大学 函館校</li> </ul>
<p>オ ブ ザ ー バ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北洋銀行 江差支店</li> <li>道南うみ街信金 本店</li> <li>檜山振興局 (地域政策課)</li> <li>(商工労働観光課)</li> <li>(教育支援課)</li> </ul>	<p>コ ー デ ィ ネ ー タ ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道教育</li> <li>大学 函館校</li> </ul>		
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 住民参加型のワークショップを随時開催するほか、地域住民への啓発を目的とした広報を、イベント開催時等の機会を通じて実施する。</li> <li>② 個別の店舗や施設が、江差町観光ポータルサイトを通じて自ら情報発信するシステムを構築し、随時情報発信の指導を行なう。</li> </ol>		
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要) 法人の実質的な活動は平成 31 年 4 月から開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信：江差町ポータルサイト運営(平成 31 年 4 月開設)</li> <li>・体験観光：江差町の魅力を活かした体験メニューを構築</li> <li>・物販：江差町アンテナショップ「ぷらっと江差」を運営(定量的な評価)</li> </ul> <p>・情報発信：江差町観光ポータルサイトの PV 36,819 件(令和元年 4~7 月) ※4 月開設のため昨年実績無し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験観光：10 件の体験メニューを整理し HP 掲載完了(令和元年 4~8 月)</li> <li>・物販：売上実績 昨年対比 122.4%(令和元年 4~7 月)</li> </ul>		

(別添) 様式 1



**2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域**



(別添) 様式 1

【区域設定の考え方】

地域 DMO として、北海道檜山郡江差町の全域を対象とする。

【観光客の実態等】

平成 30 年度観光客入込数 285,600 人 (対前年比 82.7%)  
(道外 167,000 人、道内 118,600 人)  
(日帰り 272,300 人、宿泊 13,300 人)

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

- ・観光施設 旧中村家住宅（重要文化財）、江差追分・山車会館、開陽丸記念館 ほか
- ・商業施設 アンテナショップぷらっと江差、町営レストランなど各種飲食店 ほか
- ・自然 かもめ島（道立自然公園）、元山・笹山（登山可能） ほか
- ・文化 江差追分（北海道指定無形民俗文化財）をはじめとする郷土芸能 ほか
- ・イベント 町の三大イベント（かもめ島まつり、姥神大神宮渡御祭、江差追分全国大会） ほか

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

町内に 10 カ所の宿泊施設があり、このうち最大収容力の施設は、ホテルニューえさしであり、55 人。全施設のトータル収容人数は、300 人余り。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

- ・自動車 新幹線駅（木古内駅、新函館北斗駅）からは、1 時間程度。
- ・バス 新幹線駅（木古内駅、新函館北斗駅）からは、1 時間 30 分程度。  
函館市内からは、2 時間 30 分程度。

【外国人観光客への対応】

- ・町内の主要観光施設は、英語併記がされている。
- ・観光ガイドの中には、英語、中国語を話すことができる者がいる。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光客入込数	江差町にどれだけの観光客が訪れたかを測り、直接的な観光効果の指標を得るため。	連携する学術機関の協力のもとで、各観光施設等の入場者数やイベント参加人数を測定。
延べ宿泊者数	滞在時間等を測り、直接的な観光効果の指標を得るため。	連携する学術機関の協力のもとで、各宿泊施設に対する調査。
旅行消費額	来訪観光客がどれだけ経済波及（直接・間接）につながっているかを測り、DMO や町の観光まちづくり政策に反映させる指標を得るため。	連携する学術機関の協力のもとで、聞き取り調査。
来訪者満足度	観光客の感情、町のイメージ等を測り、マーケティング戦略のための指標を得るため。	連携する学術機関の協力のもとで、聞き取り調査。
リピーター率	観光による持続的なまちづくり進	連携する学術機関の協力のもと

(別添) 様式 1

	めるにあたり、継続的な来訪による関係人口化の促進状況を測るため。	で、聞き取り調査。
WEB サイトアクセス状況	江差町観光ポータルサイト等の閲覧者が、どのような属性や傾向を持つのかを分析することで、マーケティング戦略のための指標を得て、施策立案に役立てるため。	Google アナリティクスを活用してデータ収集。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> ・ 自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・ 全国各地、海外に支部を持つ江差追分の中心地であること ・ 北海道最古とされるお祭り(姥神大神宮渡御祭) ・ 北前船で栄えた頃の町並みを再生した街道 ・ 多く残る伝統的な建造物 ・ 独特な自然景観のかもめ島 ・ 奥尻島とのフェリーターミナルがある ・ 北前船交易のイメージからニシン料理の知名度が高い ・ 北海道内では比較的雪が少なく温暖 ・ 幕末体験ができる開陽丸復元施設 ・ 日本遺産認定 ・ 最も美しい村連合加盟 ・ ニシンの漁獲増加(群来の再来) ・ 主要な観光施設が徒歩圏内にある	<b>弱み (Weaknesses)</b> <b>自地域で改善を必要とする弱みは何か？</b> ・ 少子高齢化の進行 ・ 若年層の人口流出 ・ 空き家の増加 ・ 冬の強風 ・ 冬場の観光客減 ・ 二次交通網が脆弱(鉄道無し。函館から路線バスで 2.5 時間) ・ 宿泊施設が少ない ・ 観光客がお金と時間を使う仕組みが不足(通過型観光の傾向が強い) ・ 観光施設の老朽化 ・ 水産業の不振(特にイカ) ・ 不定休、または日曜定休の店舗が多い
外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> <b>自地域にとって追い風となる要素は何か？</b> ・ 団体旅行から個人旅行へ移行 ・ 北海道新幹線の開業・札幌延伸 ・ 函館市がクルーズ船誘致を強化 ・ リノベーションされた古民家のブーム ・ 地域特有の歴史文化が特にインバウンド客からユニークメニューとして評価	<b>脅威 (Threat)</b> <b>自地域にとって逆風となる要素は何か？</b> ・ 全国的な少子高齢化の進行 ・ 観光地間の競争激化 ・ 函館圏で大型宿泊施設の増加による、日帰り観光客の増加と、観光消費額の減少。 ・ 北海道新幹線の札幌延伸(2030年)による通過客の増加

(2) ターゲット

(別添) 様式 1

<p>○第1ターゲット層 北前船で日本海を渡り全国と交易して醸し出された、特色ある歴史や文化に興味のある人</p>
<p>○選定の理由 江差町では、「江差追分全国大会」や「姥神大神宮渡御祭」などにより、いわゆる「関係人口」と呼ばれる、観光客以上に江差町との接点が高い全国規模の交流が存在する。 一方、北海道指定の無形民俗文化財は全7件の内、6件が江差町に存在する他、「江差の五月は江戸にもないニシンの繁栄が息づく町」というストーリーが北海道内で初めて日本遺産に認定されるなど、他地域には無い歴史や文化も江差町には存在する。 これらの歴史や文化を観光資源として捉え、これらに興味を持つ人々を第1ターゲット層とする。</p> <p>○取組方針 江差町の特色ある歴史や文化に興味を持つ旅行客が、ただ単純に見て楽しむだけでなく、自ら体験して、さらに地域住民と交流を深めるコンテンツを満喫してもらうことにより、旅行客を関係人口にまで昇華させることを目指す。</p>
<p>○第2ターゲット層 ニセコなど道央圏に訪れる欧米豪の外国人旅行客</p>
<p>○選定の理由 アウトドアアクティビティが豊富に揃い、外国人旅行客から人気のニセコやルスツなどから江差まで車で2時間台、かつ北海道新幹線の2駅まで1時間という江差町の立地的特性を踏まえ、アウトドアアクティビティとオリエンタルな歴史文化体験の両方に興味を持つ欧米豪からの旅行客を第2ターゲット層とする。</p> <p>○取組方針 欧米豪などの遠方から来日する外国人旅行客は広域を周遊する傾向(テニスラケットの理論)があるが、特に長期滞在の傾向が強いニセコ等の欧米豪旅行客が、第2第3の立ち寄り先として、北海道内でも特色ある歴史文化を持つ江差町を訪れ、着物まち歩き体験などを通して地域住民と交流することで、江差町への関心を深めることを目指す。</p>
<p>○第3ターゲット層 函館市に訪れる旅行客(特にアジア圏の外国人旅行客)</p>
<p>○選定の理由 江差町まで自動車です約1時間半の距離にある函館市は、リピート率が比較的高い旅行先として知られている。だが、函館市が持続的にリピート客数を維持するためには、市内の観光地だけでなく、近隣エリアにも立ち寄り先を確保することが必要だと考える。 そこで、上記の第1ターゲット層の欄に記載した江差町の特色を活かし、函館市内と重複しない新たな立ち寄り先として江差町は有望と捉え、函館市に訪れる旅行客を第3ターゲット層とする。 特に、函館空港からの直行便や北海道新幹線で来函するアジア圏の外国人旅行客を、第2ターゲット層の欄に記載したテニスラケットの理論に則り、函館市から広域で周遊するターゲット層として捉える。</p> <p>○取組方針</p>

(別添) 様式 1

このアジア圏旅行客を中心とした函館市に來訪する旅行客に対しては、短時間で体験できるコンテンツを提供することにより、気楽に函館から足を延ばせる立ち寄り先として江差町が認識されることを目指す。

※江差町では、令和元年 9 月末と令和 2 年 1 月に町内観光客向けの経済波及効果調査を実施予定である。この調査結果を基に、江差町や北海道教育大学函館校と連携して分析することにより、令和 2 年 3 月末を目途にターゲット層設定の見直しを行なう。また、江差町では北海道教育大学函館校と連携して、令和 2 年度中に町内事業者向けの経済波及効果調査を実施予定であり、その結果もターゲット層の設定に活用する。

(3) コンセプト

①コンセプト	ニシンが形づくったカモメの港町 北海道江差町
②コンセプトの考え方	北海道の南西部に位置する江差町には、かつて北海道沿岸を賑わせたニシン漁をはじめとした北前船交易により繁栄した港町を中心とした歴史文化が至るところに息づいている。 町のシンボルである“かもめ島”は、天然の防波堤となり、ニシンの豊漁、北前船の往来を助ける大切な役割を果たした。 町を訪れる人々は、食や民謡をはじめ、町を形作る有形・無形のニシン漁に由来する様々なコンテンツに触れることにより、いにしえの空間へ誘われる。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	年 4 回開催される江差町観光まちづくり協議会等の場を通じて、地域の関係者と情報共有、戦略に関する議論等を行う。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	飲食店や宿泊施設をはじめとする地域の観光サービス提供事業者に対して、随時コンサルティングを実施し、また、外部の講師を招聘するなどして、サービスの質の維持・向上を図る。

(別添) 様式 1

一元的な情報発信・プロモーション	行政機関、観光協会、各種事業者等と連携して、DMO が運営するポータルサイトから一元的に観光情報を発信すると共に、その情報を基にした観光プロモーションを実施する。
------------------	---

**6. KPI (実績・目標)**

(1) 必須KPI

指標項目	単位	令和元年 (度)	令和2年 (度)	令和3年 (度)	令和4年 (度)	令和5年 (度)	令和6年 (度)
●旅行消費額	百万円	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●延べ宿泊者数	千人	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●来訪者満足度	%	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●リピーター率	%	( )	( )	( )	( )	( )	( )

※江差町では、令和元年9月末と令和2年2月に町内観光客向けのアンケートによる経済波及効果調査を実施予定である。この調査結果を基に、江差町や北海道教育大学函館校と連携して分析することにより、令和2年3月末を目途に必須KPIの目標値を設定する。また、江差町では北海道教育大学函館校と連携して、令和2年度中に町内事業者向けのアンケートによる経済波及効果調査を実施予定であり、その結果も必須KPIの目標値設定に活用する。

(2) その他の目標

指標項目	単位	令和元年 (度)	令和2年 (度)	令和3年 (度)	令和4年 (度)	令和5年 (度)	令和6年 (度)
●江差町観光ポータルサイトの年間PV数	万PV						

※江差町では、令和元年9月末と令和2年2月に町内観光客向けのアンケートによる経済波及効果調査を実施予定である。この調査結果を基に、江差町や北海道教育大学函館校と連携して分析することにより、令和2年3月末を目途にその他KPIの目標値を設定する。また、江差町では北海道教育大学函館校と連携して、令和2年度中に町内事業者向けのアンケートによる経済波及効果調査を実施予定であり、その結果もその他KPIの目標値設定に活用する。

**7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し**

(1) 収入



## (別添) 様式 1

年度	総収入 (円)	内訳
令和元年度	66,382,960 (円)	【市町村からの補助金】 32,763,000 円 【地方公共団体からの受託事業収入】 6,276,960 円 【収益事業収入】 27,343,000 円
令和2年度	65,512,460 (円)	【市町村からの補助金】 32,107,740 円 【地方公共団体からの受託事業収入】 4,968,000 円 【収益事業収入】 28,436,720 円
令和3年度	66,007,774 (円)	【市町村からの補助金】 31,465,585 円 【地方公共団体からの受託事業収入】 4,968,000 円 【収益事業収入】 29,574,189 円
令和4年度	66,561,430 (円)	【市町村からの補助金】 30,836,273 円 【地方公共団体からの受託事業収入】 4,968,000 円 【収益事業収入】 30,757,156 円
令和5年度	67,174,991 (円)	【市町村からの補助金】 30,219,548 円 【地方公共団体からの受託事業収入】 4,968,000 円 【収益事業収入】 31,987,443 円

## (2) 支出

年度	総支出	内訳
令和元年度	62,830,000 (円)	【事業費(情報政策,受入体制整備)】 2,000,000 円 【事業費(売店)】 33,264,000 円 【一般管理費】 27,566,000 円
令和2年度	63,438,300 (円)	【事業費(情報政策,受入体制整備)】 2,000,000 円 【事業費(売店)】 33,596,640 円 【一般管理費】 27,841,660 円
令和3年度	64,252,683 (円)	【事業費(情報政策,受入体制整備)】 2,200,000 円 【事業費(売店)】 33,932,606 円 【一般管理費】 28,120,077 円
令和4年度	64,873,210 (円)	【事業費(情報政策,受入体制整備)】 2,200,000 円 【事業費(売店)】 34,271,932 円 【一般管理費】 28,401,278 円
令和5年度	65,599,942 (円)	【事業費(情報政策,受入体制整備)】 2,300,000 円 【事業費(売店)】 34,614,652 円 【一般管理費】 28,685,290 円

## (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

【旅行商品・体験観光プログラムを企画販売】令和元年度中に旅行業3種登録を完了させることで、令和2年度以降、旅行商品や体験観光プログラムを企画開発し、自社サイト等を通じて販売する。

【特産品販売】江差町アンテナショップ「ぷらっと江差」で販売する商品について、地域事業者と連携して、江差ならではの新品開発を行なうことで、売上高の伸長を図る。

## 8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

北海道江差町は、一般社団法人北海道江差観光みらい機構を当町における地域DMOとして登録したいので、当法人とともに申請します。

## 9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	浅見 尚資
担当部署名(役職)	事務局長
所在地	北海道檜山郡江差町字姥神町 1-10
電話番号(直通)	0139-56-1144
FAX 番号	0139-52-5505
E-mail	takayoshi.asami@esashi.town

## 10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	北海道 江差町
担当者氏名	南出 徹
担当部署名(役職)	追分観光課 主幹
所在地	北海道檜山郡江差町字中歌町 193-1
電話番号(直通)	0139-52-6716
FAX 番号	0139-52-5666
E-mail	toru.minamide@town.hiyama-esashi.lg.jp

【区域】北海道檜山郡江差町

【設立時期】平成30年10月17日

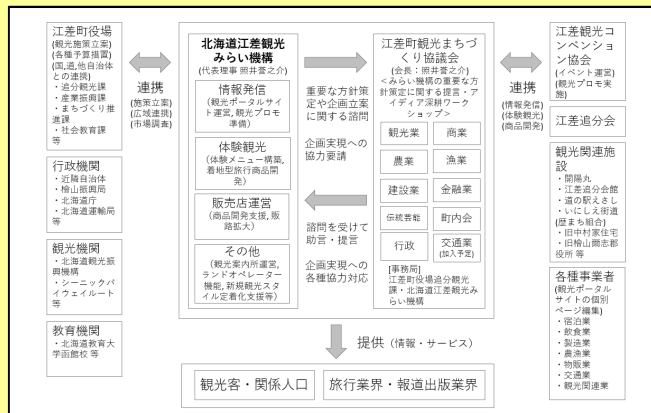
【代表者】照井 誉之介

【マーケティング責任者】浅見 尚資

【職員数】職員7名【常勤7人(正職員7人)】

【連携する主な事業者】北海道檜山振興局 江差町  
江差観光コンベンション協会 江差追分会 江差商工会  
ひやま漁協江差支所 新函館農協江差支店  
交通事業者(バス、フェリー他) 他

(表：実施体制)



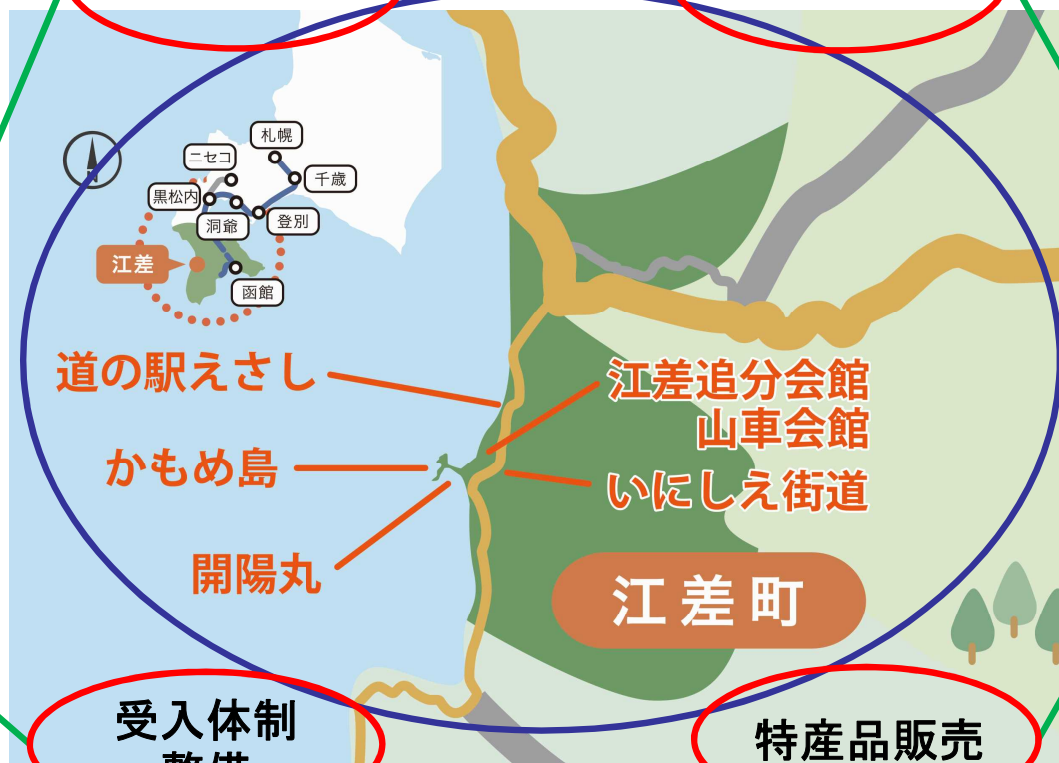
(表：KPI(実績・目標))※( )内は外国人に関するもの  
※KPIについては、令和2年3月末を目途に設定予定

	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)
旅行消費額	( )	( )	( )	( )	( )
延べ宿泊者数	( )	( )	( )	( )	( )
来訪者満足度	( )	( )	( )	( )	( )
リピーター率	( )	( )	( )	( )	( )

### 体験観光プログラムの創出

- 通過型観光の傾向が強かった江差町において、ただ見るだけでなく、自ら体験して・触れて・楽しんでもらうメニューを創出することにより、滞在時間と消費額の増加を図る。
- 体験メニューを構築するにあたっては、町内の有志や各種事業者と連携することにより、地域内の経済効果や域内調達率の最大化を図る。
- 体験メニューは江差町を楽しむ第一段階として位置付ける。第二段階として、歴史や文化的な資源が豊富な江差町の魅力をより深く楽しむために何度も通いたくなるような、「匠の技」習得コースを構築することにより、来訪者を観光客から関係人口へ昇華させるように取り組む。

### 体験観光



### 情報発信

### 情報発信

- 江差町を観光するために必要な情報が一元的に揃う「江差町観光ポータルサイト」を管理運営することにより、近年増加傾向にある個人旅行へ対応すると共に、観光誘客に影響する旅行事業者や出版報道事業者にとっての情報源として活用されることを狙う。
- 同ポータルサイトは、サイト管理者だけでなく、町内の各種事業者が自社の掲載ページを自ら編集することにより、旬な情報や新しい取り組みが適宜発信されることにより、サイト閲覧者の満足度を高める取り組みを進める。

### 観光客受入体制の整備

- 江差町観光情報総合案内所を、着地側のワンストップ窓口として機能させるべく、体験観光プログラムの受付・販売機能や、JNTO外国人観光案内所への登録準備を進める。
- 観光客の多様なニーズに対応するため、サイクルツーリズムやトレイルハイクなど、新たな観光資源の発掘や調査を進める。

### 受入体制整備

### 特産品販売

### 特産品販売

- 江差町のアンテナショップである「ぷらっと江差」において、来店するお客様からの意見や反応を、取引業者と連携して分析することにより、売上高と顧客満足度の向上を図る。
- 江差産ニシンなど、江差の歴史に根差した食材を活用して江差グルメブランドを構築するために、地域の事業者と連携して新商品の開発を進める。
- 江差産品が、繁忙期だけでなく、通年で販売される環境を拘置するため、販路拡大の支援やインターネット販売の準備を進める。